

羅 針 盤			方 策		達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	総合	※評価対象についての1年間の具体的な達成状況について分析し、次年度に改善すべきこと、重点を置いて実施すべきこと等を総合的に判断して記述する。		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校を好きだと感じている生徒の割合が、80%以上である。	B	B	B	B	・各科の特性を生かした教育課程編成を行っているなかで、西邑楽高校が好きであると回答した生徒の割合は82.8%であり、数値目標は達成しているものの今年度第1回調査と比較すると5.0%の減少となっている。今後も生徒、家庭及び地域のニーズを把握しながら、教育活動に反映させていきたい。 ・スポーツ科及び芸術科生徒の授業に対する満足度は95%超となっているが、普通科生徒の満足度は82.8%に留まっている。普通科の専門は学習であることを改めて確認するとともに、生徒に適切な授業レベルの設定及び生徒の意欲を喚起する授業の構築について、教員側の一層の努力を要する。	・芸術科、スポーツ科の生徒は、それぞれの独自性が表れ、満足度が高い。普通科の生徒たちも決して満足度が低いわけではないが、より多様な進路選択を明確にすることで、同程度の満足度へ向上させられるのではないかと。 ・普通科における特色づくりは困難だと思うが、探究やキャリア教育などで工夫してみてもどうか。
		②習熟度別授業(数学・英語)や専門教科(体育・音楽)の授業に満足している生徒が、85%以上である。						
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③生徒の発言・発表や活動の場が授業に取り入れられていて、授業に充実感を感じている生徒が80%以上である。	C	C	C	C	・生徒の発言・発表や活動の場を取り入れた授業による充実感を得ている生徒の割合は76.3%に留まっている。授業における「何を学ぶか」の比重が高く、新課程の重要な要素たる「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点が不足していることが一因と考えられる。専門の授業や総合的な探究の時間との横断的な授業構築等を視野に、授業に対する一掃の工夫・改善が必要である。	・横断的な授業構築は理想的ですが、教育課程そのものを総合的に組み立てないと課題も多いかと思えます。高校は専門性も高く、小中より時間がかかると思いますが、文化祭などの大きな行事を通して非認知能力や始動人を育てるのもありなのと思う。
		④「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。						
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤家庭学習の内容の充実を図り、設定した目標値を達成している生徒が60%以上である。(平日、1,2年生は80分、3年生は120分)	C	C	C	C	・過年度と比較すると、生徒の読書量の割合は微増しているが、図書館での貸出し冊数は減少している。生徒の読書習慣の確立を目指し、引き続き、読書の楽しさを伝える情報の発信に努めたい。 ・設定した目標値に達している生徒の割合は24.4%である。次年度は成績回票、模試結果のファイリングを通じて、学習への取り組みの振り返りや改善ができるようにする。また、到達度診断テストがWeb受検可能になる。Web受検では結果確認や振り返りが早期に可能となる。事前・事後学習への取り組みも含めた学習のサイクルを係で提案し、実施していきたい。 ・第3回の再検定の発表を残してはいるものの、第2回の結果では目標達成は困難な状況である。生徒の受験意欲の喚起及び長期的な目標に向けて努力することの重要性に気づく指導を継続する。検定に対する学校内の位置づけを改めて検討する。	・朝読書もいいですが、朝新聞もいいと思います。批判的な読み方も身につきます。読書ならビブリオバトルなどを取り入れると盛り上がりそうです。 ・授業参観で見ただけではあるが、黒板等の使い方に工夫の余地がありそうな気がする。
⑥日本漢字能力検定並びに実用英語技能検定の合格者が、それぞれ2級15名以上、準2級が50名以上である。	C	C						
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学校生活全般を通じて、あいさつ・身だしなみ・遅刻防止に関する指導を進め、あいさつができるという評価をしている生徒が85%以上である。	B	B	B	B	・学校評価アンケートでは、90%以上の生徒が「挨拶、きちんとした服装、言葉づかい、遅刻防止に気をつけている」と回答している。保護者も90%近くの方ができていると回答している。一方で、職員からは「服装の乱れ」「遅刻」に関する否定的な意見が出てしまっているのが現状ではある。次年度以降も根気強い生活指導を職員一丸となって、登下校時指導やキャンペーンなども活用し、指導を強化していきたい。	・あいさつや言葉遣い、身だしなみは社会に出て、その人の評価につながるため、継続的な指導が必要であると思われる。あいさつと遅刻防止のアンケートを別々にとれば、結果が変わるのではないかと。
		⑧学校はいじめの防止や早期発見に積極的に取り組んでいると感じている生徒が、90%以上である。						
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨教職員全員が、自身の人権感覚を高め、一人一人の生徒を深く理解し、尊重しあう人間関係を育てている。	B	B	B	B	・いじめに関する項目では「取り組みを感じる」と回答した生徒が85%程度にとどまった。生徒向け、保護者向け、教職員向けとそれぞれに、研修やお知らせなどをより明確に、具体的に、継続的に取り組んでいきたい。	・生活リズムを整えることや基本的な生活習慣の指導に力を入れているのがわかります。また、人権感覚を磨くことによる最終的には自分を大切にできる生徒が育つことと思っています。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩生活リズムを振り返ることによって規則正しい生活を送り、健康の保持・増進に努めている生徒が80%以上である。	B						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が、70%以上である。	B	B	B	B	・学校評価アンケートでは、80%の生徒が生活リズムを振り返る事によって規則正しい生活を送り、健康の保持・増進に努めていると回答しているが、生徒と教員では、認識のずれがあると感じるところもある。生活習慣に関するアンケートでは、健康であるために心がけていると答えた生徒は6割であったため、来年度は規則正しい生活を送るための提案をしたり、アンケートを2回実施するなどしていきたい。	・部活動でも他の活動でも、打ち込めるものがある生徒は強いと思います。是非、指導を続けてください。
		⑫学校から家庭へ発信している進路情報、保護者を対象とした進路行事について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。						
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬進路行事や進路学習、担任との二者面談は、進路選択に役立っていると感じている生徒が、90%以上である。	B	B	B	B	・進路行事や進路学習、二者面談が役に立っていると回答した生徒の割合は、それぞれ約80%前後である。各行事の事前、事後指導まで含め計画し、総合的な探究の時間等の他教科との連携も考えていく必要がある。また、保護者向けの進路説明会を各学年1回設定し、その時期に必要な進路情報を届ける。他にもR5年度と同様に、進路行事のホームページを通じての発信も継続する。	・進路関係のアンケートでは、生徒も職員も「2. ややあてはまる」の数値が高いため職員に、もっと生徒の進路について力を入れて欲しい。その結果が学校の高評価につながると思う。 ・高校における進路指導は多岐にわたり、生徒一人ひとりに応じた指導もなかなか難しいのではないかと思います。
9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭学校から家庭へ発信している通知、便り等について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。	B						
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮本校のホームページは、進路選択をするうえで役に立ったと感じている中学生が、80%以上である。	B	B	B	B	・「PTAだより」の発行時期はこれまでと同様に5月(職員紹介号)、7月、3月とした。コロナ禍の落ち着きとともにPTA活動も増え、内容が充実してきた。速報性を重視する意味で、学校ホームページでの発信も併用しているが、知的財産権等保護への配慮との両立が今後の課題である。 ・芸術科を中心に、説明会などの情報や生徒の活動の様子の積極的な発信はなされたのではないかとと思われる。今後の課題としては、運動部を始めとした部活動の実績のアピール等が考えられる。	・生徒はもちろん、保護者も紙面より携帯やパソコン等からの情報収集が多いと思われるため、タイミングを逸することなく、継続的な情報発信が必要だと思う。 ・なかなかPTA活動などが復活できない中で、コロナ禍以前に活動を戻せることを目指したいと思います。
		⑯授業でICT機器を活用が進んでいると感じている生徒が、80%以上である。						
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰ICTを活用した業務改善が進んでいると感じている教職員が、80%以上である。	C	C	C	C	・85.8%の生徒がICT機器の活用が進んでいると回答している。活用の場面は増えているという一定の成果はあるものの、前述③のような効果的な活用には課題が残ると考える。生徒自身の技能面の進歩に対応すべく、教員側の活用技術及び指導力のレベルアップ、効果的な活用場面の設定が課題である。 ・業務改善は、まだ充分という水準には達していないと感じている教職員が少なくない。ICTの活用が教職員の負担軽減と業務の効率化につながるよう、各分掌の協力を仰ぎ、長期的な視点で進めていきたい。	・一人に1台のChromebookが貸与され、指導の場にもICT活用が進んできていると思われる。 ・業務改善においては、負担軽減や業務の効率化を図るため、ICT活用による職員の努力がまだまだ必要であると感じられた。
		⑱ICTを活用した業務改善が進んでいると感じている生徒が、80%以上である。						